

生産地から“MITSUKE KNIT”を発信!

見附市

産地ブランド「MITSUKE KNIT」

今までの見附のニット産業は、技術力を活かすために、企画提案力を磨き、大手アパレルメーカーの高級ブランドをOEM生産してきました。しかし、高級ブランド=百貨店ブランドであり、近年の百貨店売上が落ち込んでいる状況下では、先を見通すことができませんでした。そのため、生産地からも積極的に“情報発信”することが重要だと考え、新たな取り組みとして産地ブランド「MITSUKE KNIT」を立ち上げました。

ただ、これまでの経験から、世界トップクラスの技術力を持ち、企画提案力も身に付けていたのですが、「MITSUKE KNIT」をブランド化するためには、デザイン力に弱さがありました。そこで、首都圏の若手デザイナー数名とコラボレーション



OEM (Original Equipment Manufacturing) 委託を受けた相手先ブランドで販売される製品を製造すること。(経済産業省HPより)

することで弱点を補い、また、商品にデザイナーと生産地の2つのブランドタグを付ける、ダブルネームで売り出すことにしました。

今後の展開としては、国内イベントのほか、平成25年1月にパリの「フーズネクスト」というサロンに出店を予定しています。そして、パリでの評価を国内外に発信することで、更なる販路拡大につなげたいと考えており、特に、以前から販路拡大に取り組んでいる中国でのブランド確立を目指しています。

若者に選ばれるファッションブルな街に

長い目で見たときに、将来を担うべき20歳代の社員が他の年代の社員に比べて少ないことが課題だと認識しています。いくら業績が好調でも、必要な年代の社員がいなければ企業は終わってしま

見附商工会
室長代理

坂井 敏昭さん



います。若い人達から思う存分働いてもらうためには、クリエイティブな仕事にも携わることができる環境を整えなければなりません。つまり、単なる生産工場からファッション産業に生まれ変わることで、そして街全体がファッションブルになることです。そのように変わることができれば、若い人達からこの街を選んでもらえるようになり、地域活性化にもつながると考えています。

数年前から、従業員を対象にニットの技術やノウハウを伝承する「ニット塾」を開催していますが、最近ではニット産業を知ってもらおうと、一般の方や学生なども対象にしています。時間が掛かるかもしれませんが、若い人を惹きつける地域になれるよう、今後も取り組んでいきたいと思っています。

一人一人の“生き方”を丁寧に取り上げたい

新潟市
中央区



「LIFE-mag.」創刊

日常生活で新聞やテレビに触れながら、ふと、紙面や時間の都合で情報の一部しか伝えていない、人の思いが乗っていないのではないかと感じるようになりました。今まで文章を書くことやデザインをした経験はまったくありませんでしたが、次第に新潟人を丁寧に取材することで、その人の喜び、悩み、葛藤、夢など、「生き方」を伝えたいという思いが強くなりました。そこで、一念発起し、いつまでも手元に残せる紙媒体の雑誌「LIFE-mag.」を創刊しました。

周囲の予想外の反応

しかし、やりたいという思いが先行し、ビジネスとしてきちんと考えていなかったため、創刊から約1年後には、資金難で休刊せざるを得なくなりました。ただ、しばらくすると「何故やめたのか」「応援していたのに」という周囲の声が、少しずつ耳に入ってくるようになりました。また、人とのつながりなどで知り合った詩人の谷川俊太郎さんや東京の編集者からも、「毎回楽しみにしていたのに、何故やめたのか」「能力があるのだから、再刊した方がいい」という言葉をいただきました。休刊して初めて、自分

株式会社エイチケイ コネクション
編集発行人

小林 弘樹さん

を認めてくれる人がたくさんいたことに気が付きましたし、同時に自分の感性が間違っていなかったことを再確認することが出来ました。

再刊にあたっては、東京の編集者から資金面と広報面でバックアップしていただいておりますが、今後もスポンサーを集め、将来は5〜10人で活動できるように頑張りたいと思っています。

Uターン情報誌

「新潟生活」と「新潟Uターン情報」をセットで無料送付しています。

新潟生活

- 新潟にUターンした先輩の体験談
- 新潟の豊かな暮らしや魅力的な仕事の紹介など

新潟Uターン情報

- 新潟県内企業の紹介
- 就職活動の動向
- 就職ガイダンスのお知らせなど

送付をご希望の方は、ニイゲットでお申し込み、又は新潟県県民生活課までお問い合わせください

新潟くらしのポータルサイト **niiGET** ニイゲット もご活用ください <http://www.niiget.jp>

- ニイガタビト 週替わりで「新潟人」にフォーカスした特集を掲載しています
- オススメ情報 新潟のグルメイベントなどのロコミ情報を週5回お届けします
- 新潟トピックス 新潟県内の社会・経済情報を見ることができます
- 合同企業説明会スケジュール 県内外で開催される合同企業説明会の日程を確認できます

お申し込み・お問い合わせ

新潟県県民生活課

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1
TEL025-280-5112(直通)



県外在住のお子様を持つ保護者に読んでもらいたい新潟暮らし情報誌

新潟生活

niigata seikatsu 第16号 2012年8月発行

- 目次 教えて先輩! ●自分の考えを持ち、行動する 新潟で家族一緒に暮らしたい ~地元の良さを感じて~
- 特集 ●にいがたの魅力を全国へ! ~地域資源発信の仕掛人~

~お子様が帰省された際に親子で将来を話し合ってみてください~

教えて先輩!
vol.29

自分の考えを持ち、行動する

Uターンしたきっかけ

元々、親孝行の意味も含めて、地元で就職できたらいいなという思いがありました。また、当時お付き合いをしていた今の奥さんが新潟で就職していたことも、後押しになりました。

入社試験に臨むにあたっては、私は文系出身だったため、技術系の会社であるマコー株式会社から採用されないかもしれないという不安もありましたが、それでも、無事内定をいただくことができ、人一倍嬉しかったことを覚えています。

仕事の内容

マコー株式会社が開発する装置は、『ウェットプラスト』という工法を利用し、様々な製品を表面処理する技術に特化したものです。私自身、営業職を希望して入社しましたが、研修として、アプリケーション開発・テ

ト部門で3年間、経験を積みました。入社後しばらくは、理系の同期達の間で飛び交う専門用語・技術用語を必死に勉強しました。

そして、今年からようやく念願の営業部門に異動することができました。今までのアプリケーション開発・テスト部門での経験を活かし、自社の技術を伝えながら、お客様が困っていることを解決できるよう、日々努力しています。

就職を考えている人へのメッセージ

私自身、一度地元を離れ、都会で世間の荒波にもまれたこと、いろいろなタイプの

人と出会えたことが、とてもいい経験になりました。県外で積んだ経験は必ずプラスになると思っています。

また、就職にあたっては、自分自身にとって何が豊かな生活なのかを思い描くことが、とても大切だと思います。私の場合は、落ち着いて暮らすことができ、やりがいのある仕事に打ち込むことができる環境を重要視していました。新潟に、やりがいのある仕事があるのか不安な人もいると思いますが、まずチャレンジすることが大切です。私のように勉強してきた内容と異なる分野の会社であっても、自分の考えを持ち、諦めずに就職活動すれば、道が開けると実感しています。



青木 卓矢さん (25歳)
マコー株式会社 営業部 営業技術

南魚沼市出身。高校卒業後、東京の大学で経営学を学ぶ。その後、地元での就職を希望し、現在の会社に就職。Uターンして今年で4年目。また、昨年結婚し、家族と一緒に暮らす自身の実家から、約1時間の道のりを車で通勤。



教えて先輩!
vol.30

新潟で家族一緒に暮らしたい ~地元の良さを感じて~

Uターンを決意

3年ほど前に一番上の子が小学校に入学したのですが、夫婦ともに仕事が忙しかったため、迎えに行くことができず、度々、一人で帰宅させることがありました。いつも「子供に寂しい思いをさせているのではないかと感じていたので、その頃から夫婦で「仕事さえあれば新潟に帰りたい」と話すようになりました。

実際、本格的に就職活動を行うきっかけになったのは、「東日本大震災」です。子供達のことだけでなく、上越市に住む両親のことも考えると、家族が近くで一緒に暮らすのが一番良いと思うようになりました。そして、15年間勤めた東京の病院を辞め、生まれ育った上越市に帰る決心をしました。

個別面談会への参加

Uターンすることができた大きなきっかけは、



新潟県が主催する医療分野のUターン個別面談会開催を義母が見付けてくれたことでした。面談は、個室で行われたので、両親の自宅から近い上越市内の総合病院という希望や家庭のことなど、何でも詳細に相談することができました。面談会から数週間後には、希望通りの病院を紹介していただいたので、本当に嬉しかったです。数年間悩んでいたことが嘘のようでした。

たことが嘘のようでした。

ひとりで悩まないこと

地元に戻りたいと思ったら、一人で悩まずにご家族や周りの方に相談すると案外、早く道が開けると思います。東京の表参道にあるネスパスのUターン情報センターで相談することも良い方法だと思います。

実際にUターンしてからは、子どもたちとゆっくり過ごせる時間を持つことができました。また、祖父母も、孫が近くに来たことを喜んでおり、親孝行にもなっていますので、Uターンして本当に良かったと思っています。



庭田 真理さん (37歳)
看護師

上越市出身。長岡の看護学校を卒業後、看護師として東京の病院に就職。今年3月に東京の病院を退職した後、上越市の総合病院にて勤務。また、3人の子を持つ母親でもある。



にいがたの 魅力を全国へ!

～地域資源発信の仕掛人～

新潟県には、お米をはじめとする質の高い食べ物、ニツや金属洋食器といった世界に通用する技を持つ地場産業、四季を彩る豊かな自然、全国屈指の数を誇る温泉地、温厚な人柄と言われる新潟人など、たくさんの魅力が詰まっています。そして、その魅力を発信することが、知名度アップやビジネスチャンスにつながり、また、住んでいる人にとっても、新潟の“よさ”を再発見するきっかけになります。そこで今回は、地域資源を活かした独自の取組みで、新潟の魅力を県内外に発信している方々をご紹介します。

ここにある、その“まんま”を伝えたい

十日町市 松之山 松之山温泉合同会社まんま 代表 柳 一成 さん

プロフィール ● 高校を卒業後、大学進学のために大阪へ。卒業後、東京のホテルで研修生として勤務し、3年後、「ひなの宿ちとせ」を継ぐために松之山へUターン。現在、松之山温泉合同会社まんま代表、「ひなの宿ちとせ」専務。新潟県の国体アルペンスキー監督も務める。



『まんま』立ち上げのきっかけ

松之山は、良くも悪くもバブルの影響を受けず、約25年前のスキー場オープン以来、日帰り客が少しずつ増えていたのですが、中越地震と中越沖地震をきっかけに客足が伸び悩むようになりました。また、旅行客にアンケート調査を行ったところ、県内観光地の中でも、驚くほど知名度が低いという結果を目の当たりにしました。

そんな現状を打破するために、まずは地域全体が協力して知名度を上げる努力が必要だと考えました。そこで、危機感を感じていた旅館、お土産店、住民有志が出資金を出し合い、「まんま」という旅行会社を立ち上げることになりました。「まんま」が目指したのは、オプショナルツアーを企画・販売する着地型観光でしたが、偶然にも同時期に、地域の歴史、文化、動植物など各分野に精通する方々が『里山のめぐみ案内人の会』というガイド組織を立ち上げました。2つの組織は、知名度を上げるために地域の魅力を発信するという同じ目的だったため、すぐに連携することになりました。

美味しい朝ご飯プロジェクト

オプショナルツアーの企画・販売以外にも、お客様の最後の朝食に郷土料理を食べていただく「美味しい朝ご飯プロジェクト」に取り組みました。「訪れなければ味わうことができない」「ご飯のお供」「季節ごとの地元食材を活用」の3つをコンセプトにした料理をお出しするものです。お客様からの評判も大変良く、今では、年間を通じて朝食が美味しい温泉地として認知されるようになりました。

このプロジェクトは、全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会青年部全国大会でグランプリを受賞し、評価していただくことができました。また、全県でも実施されるなど、取組みが拡大し、波及効果もあったと考えています。

着地型観光とは?

旅行者を受け入れる地域が、その地域でおすすめの観光資源を基に、旅行商品や体験プログラムを企画・運営する形態です。独自性が高く、その地域ならではのさまざまな体験ができるため、旅行先の魅力を味わう上でオススメです。(観光庁HPより)

無いものねだりをしない

「まんま」のこだわりは、無いものねだりをしないということです。松之山地域にないものをわざわざ他から持ってくる必要はありません。ここには、日本三大薬湯のひとつである高温で豊富な新源泉、美人林や棚田をはじめとした日本の原風景など、魅力的なものがたくさんあります。今あるものを発信することで、地域をその“まんま”楽しんでいただきたいのです。どこかと比べて良い悪いではなく「この場所に来てよかった」「地域の良さを味わうことができた」と言ってもらえることが一番嬉しいです。そういった方が1人でも増えるように、旅館が歯車となり、これからもアクションを起こし続けたいと思っています。

～ 四季を感じる豊かな自然 ～

松之山は、春の山菜採り、夏の魚採り、秋の栗拾い、キノコ採りなど、四季を感じる豊かな自然が最大の魅力です。私は、ツアーの最後に大自然の中でオカリナを演奏するのですが、お客様から大変喜んでいただいています。今後も、多くの方に自然をはじめとした、松之山の素晴らしさを伝えていきたいです。

里山のめぐみ案内人の会 <http://satomegu.daizinger.jp/>



里山のめぐみ案内人の会 案内人 保坂 清 さん

プロフィール ● 高校を卒業後、大学進学のために東京へ。その後は、東京で中学校の教員として勤務し、2003年に生まれ育った松之山へUターン。現在、ガイドとして観光客に地域の魅力を伝えている。

移住者目線で新潟の“逸品”をご紹介します!

新潟市 西区 NG-life 代表 谷 俊介 さん



プロフィール ● 東京都出身。東京の大学在学中から、ITのベンチャー企業に勤務。退社後の2011年、妻の実家がある新潟市に、高校の友人やIT企業の後輩らと共にUターンし、「NG-life」を立ち上げる。2012年からは、自らが“逸品”と感じた商品を扱うショッピングサイト「新潟直送計画」の運営を開始。現在、来年の法人化に向け準備中。

つながりを求め

ITのベンチャー企業は急速に成長できますが、気が付くと倒産していたという例も少なくありません。そうした、移り変わりの激しい業界を見ているうちに、たとえIT企業であっても、地域と一緒に育ち、着実に成長できる会社をつくりたいと考えるようになりました。また、東京での生活は、人とのつながりが希薄だったので、場所を変えれば人とのつながり方も変わるかもしれないと思い、以前から一緒に新しいチャレンジをしたいと話していた高校の友人やIT企業の後輩ら3人を誘い、妻の実家がある新潟へ行くことを決めました。

それまでも、新潟には何度か訪れたことがありましたが、山、海、温泉、食べ物、農業、産業など、すべてを新潟産で揃えることができ、東北圏でも関東圏でも北陸圏でもない独立国家のような、とても魅力的な街に映っていました。新しい環境下でのチャレンジは、不安よりも、むしろ楽しみや期待の方が大きかったです。

県内の人にも再発見してほしい

県外から来た私達にとって、新潟にはお米以外にも枝豆、かんずり、ル レクチエなど、美味しいモノがたくさんあります。しかし、地元の人にとっては、その味が当たり前になっていて、特別、美味しいモノとは感じていないようでした。また、生産者である農家さんや職人さんも技術は確かなのですが、当然、作り手=売り手ではないため、営業力・発信力が弱いように思いました。

そこで、私達が何か「売る」お手伝いをできないかと考えた結果が、今までの経験を活かしたショッピングサイト「新潟直送計画」です。「新潟直送計画」は、新潟の“逸品”を県外に発信するのはもちろんのこと、県内の方にも、美味しいモノや素晴らしいモノを再発見するきっかけになってほしいと考えています。

新潟にはバイクなど車社会に見合ったイ



ンフラが整備されていますし、物件の家賃をはじめ首都圏よりも物価が安いので、新しいことを始めるにはハードルが低く、チャンスを得やすいと感じています。首都圏を否定するつもりはありませんが、新潟にいるからこそそのチャンスもたくさんあると感じています。

初めての 新潟暮らし



ディレクター 山口 俊之 さん
プロフィール ● 神奈川県出身。営業として県内各地の「つくり手」を訪問。谷さんのIT企業の後輩。

新潟の“人の温かさ”

営業として、会社や農家さんを訪問する機会が多いのですが、県外から来た見ず知らずの私に対しても親切に対応してくださるので、新潟の人の温かさを感じています。当初、両親には新潟に行くことを反対されましたが、今では、「新潟直送計画」で商品を購入してくれるなど、応援してもらっています。

管理 長田 邦彦 さん
プロフィール ● 静岡県出身。高校から首都圏で生活。お金の管理から雑務まで幅広い業務をこなす。谷さんの高校、大学の友人。

新潟の夜空に感動

新潟は静岡と似たような雰囲気でも懐かしい気がしました。予想以上に食べ物がいちやく、東京よりも時間がゆっくりと流れているので、とても生活しやすいです。新潟でふと夜空を見上げたとき、星があまりにもキレイで感動しました。

制作 入澤 央充 さん
プロフィール ● 東京都出身。主に来店客を取扱って回り、ホームページで情報発信。谷さんのIT企業の後輩。

“生きている”を実感できる場所

新潟に行くことについて、4人の中で最も慎重だったかもしれません。しかし、実際に来てみると新潟駅周辺は都会ですが、少し足を伸ばせば海や山など自然のテーマパークがあります。東京では、仕事に追われて精神的に余裕がありませんでしたが、今は、生きていることを実感できるくらい充実しています。